

平成 29 年

# 社会文教常任委員会会議録

平成 29 年 6 月 23 日

田 上 町 議 会

平成29年第4回定例会  
社会文教常任委員会会議録

---

---

- 1 場 所 第1委員会室
- 2 開 会 平成29年6月23日 午前9時
- 3 出席委員
- |    |       |     |        |
|----|-------|-----|--------|
| 2番 | 笹川修一君 | 9番  | 川崎昭夫君  |
| 3番 | 小嶋謙一君 | 10番 | 松原良彦君  |
| 7番 | 浅野一志君 | 14番 | 小池真一郎君 |
- 4 委員外出席議員
- 議長 熊倉正治君
- 5 欠席委員
- なし
- 6 地方自治法第121条の規定により説明のため会議に出席した者の氏名
- |     |      |               |      |
|-----|------|---------------|------|
| 町 長 | 佐藤邦義 | 町民課長          | 鈴木和弘 |
| 副町長 | 小日向至 | 保健福祉課長        | 吉澤宏  |
| 教育長 | 丸山敬  | 教育委員会<br>事務局長 | 福井明  |
- 7 職務のため出席した者の氏名
- 議会事務局長 小林亨
- 書記 渡辺真夜子
- 8 傍聴人
- 議会議員 関根一義 新潟日報社 三條新聞社
- 9 本日の会議に付した事件
- 議案第34号 田上町重度心身障害者医療費助成に関する条例の一部改正について
- 議案第36号 平成29年度田上町一般会計補正予算（第2号）議定について中  
第1表 歳出の内
- |    |            |
|----|------------|
| 2款 | 総務費（2項、3項） |
| 3款 | 民生費        |
| 4款 | 衛生費        |

1 0 款 教育費

---

午前9時00分 開 会

---

社会文教常任委員長（松原良彦君） 皆さん、おはようございます。これより社会文教常任委員会付託案件審査を開催いたします。

梅雨に入ったとはいいいながら、なかなかいい日もあるということで、皆さんもさぞかし服装の内容が大変だと思いますけれども、それぞれよろしく願いいたします。

私いつもこの役場に来るときは大正川を通過して、焼却場のところまでの道を通ってくるのですが、大正川に沿ってアジサイの花が3つに分かれて咲いております。1つは、今これから色をつけようという新しい花が満開になりそうですし、真ん中の羽生田川の付近は、いつも皆さんが見られているアジサイの青の色の花が今終わろうとしています。それから最後、焼却場に向けては新しい品種のアジサイの花が咲いて、小さなボタンというか、なかなか味のあるような色が出ております。皆さんの家におかれましては、アジサイの花も作っているかと思っておりますけれども、普通の一般の花ならば満開にきれいに咲いているというところでございますが、田上の観光の一つでもございますので、どこの家もあるといいなというふうに思っております。

それから、もう一点ですけれども、いじめや暴力は学校だけというふうに思っていましたら、大したものですね。埼玉4区、女性議員が暴力を振るっていたなんてという話が今日の新聞にも出ています。そしてまた、インターネットによれば、車の後ろに乗っていて、運転手の頭をぶつかすか殴ったとか、そういうような話も出ておりますけれども、大人の社会、それも文教系のこともやった役員の方がそういうことをやるということはなかなか信じられないようなことで、地元民もいろんな批判が出ております。私たち議員もそういうことはないかと思っておりますけれども、学校に限らず、暴力はしないことにしたほうがいいと思います。

以上でございますが、町長、ご挨拶お願いいたします。

町長（佐藤邦義君） 改めまして、おはようございます。

初日、2日、大変ご苦労さまでございました。6人の議員の皆さんからご質問いただきまして、提案では、できるだけ財政的にも対応できるものはできるだけ早くやっていこうということで対応していきたいと思っております。

今ほど話がありましたように、気候がこういう状況で、今年は夏場は涼しくなっ  
てほしいなと思って、笹川議員から提案ありました、これについてはどうも今の段  
階では今年うちにはちょっと難しいかもしれませんが、なおさら涼しくなればいい  
なと思っているのですが、来年ぐらいには何とか対応できるような形でやっていき  
たいなと思っております。農家のほうもこういう天気だと、今週あたりからちょっ  
と気温が高くなるということでもありますので、どうも今までは家の近所の農家あた  
りも大変心配しておりました。このところちょっと稲の生育もよくなってきたよう  
でありますので、平年並みかなというのが農家の人たちの考えでございますが、今  
気候変動がありますが、いい年になってほしいなと思っております。

今日この委員会といたしまして、冒頭話がありましたように議案第34号の重度心  
身障害者の医療費助成に関する条例の一部改正、それからあとは補正予算でござい  
ますので、よろしくご審議お願いしたいと思っております。

よろしくお願ひいたします。

社会文教常任委員長（松原良彦君） ありがとうございます。

それでは、今日は三條新聞、それから関根議員より傍聴の願ひが出ておりますの  
で、よろしくお願ひいたします。

（日報の声あり）

社会文教常任委員長（松原良彦君） 日報さんもそうですね。傍聴の願ひが出ています。  
許可いたします。

それから、もう一点、ここに先ほど配られました示談書というような大きな文字  
が出ています。執行側からこれの説明があるということですので、小日向副町長お  
願ひします。

副町長（小日向 至君） 貴重な時間ちょっとおかりしまして、説明させてもらいま  
すが、委員長からお話ありました示談書、右上にマル秘というふうな形になってい  
るかと思いますが、これにつきましては議案書の63ページをお開き願ひしたいの  
ですが、議案書の63ページに提案しました専決処分の関係で、議会運営委員会  
の中で和解の相手方のお名前とかがないのはどういうことなのだという議論があ  
りまして、当初は個人情報との関係がありますので、公にしないで審議して  
いただきたいなというふうに考えておったのですが、ここにかかわる4万円程  
度の金額ではありますけれども、今回の補正の中にも出ていた関係もありま  
すし、それらも含めまして他の市町村の状況も確認しましたら、半分ぐら  
いの市町村が相手の方の名前も出すようでもありますので、今回改めてこ  
ういう示談書という形の内容を添付させていただくこと

になりましたので、マル秘の取り扱いでひとつお願いしたいなど。そういう意味での今回の報告内容でありますので、よろしく願いいたします。

以上です。

社会文教常任委員長（松原良彦君） はい、わかりました。

それでは、この示談書の件は執行側のご意見でございますので、マル秘ということもございまして、納得してよく考えてしていきたいと思っております。

それでは、これより社会文教常任委員会を進めさせていただきます。

それでは、本委員会に付託されました案件は議案第34号 田上町重度心身障害者医療費助成に関する条例の一部改正について、議案第36号 平成29年度田上町一般会計補正予算（第2号）議定について中、第1表、歳出のうち2款総務費（2項、3項）、3款民生費、4款、衛生費、10款教育費であります。

これより議事に入ります。

それでは、議案第34号を議題といたします。

執行の説明を求めます。

保健福祉課長（吉澤 宏君） それでは、議案の11ページをお開きください。議案第34号でございます。田上町重度心身障害者医療費助成に関する条例の一部改正についてでございます。

開いていただいて、新旧対照表で説明させていただきます。資料ナンバー1でございます。左側が新、右側が旧でございますけれども、この重度心身障害者医療費助成というのは、現時点で療育Aの判定を受けた方と身体障害者の1級から3級の認定を受けた方が対象になります。それに加えて、改定では精神障害者1級の人を加えるという趣旨でございます。

新のほうで3条（1）、（2）というのがございましてけれども、（1）が療育の判定Aを受けた方が対象でございます。3段階ある一番重い人が対象でございます。

（2）は、身体障害者なのでございますけれども、1級から3級の方が対象でございます。6段階あるうち、重いほうから3段階の方が対象でございます。

（3）でございますけれども、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第45条第2項の規定に係る精神障害者保健福祉手帳の交付を受け、障害の等級が1級の者。これが改正を、追加をお願いするものでございましてけれども、精神障害者、県の認定を受けている1級の方なのでございますけれども、精神障害者は1級から3級までございまして、その3段階のうち一番重い人を対象としてございます。

その下の（4）でございますけれども、前3号と同等以上の障害を有し、町長が

認定したものでございます。旧のほうは（３）、これを（４）に改めたいというのは、前号で精神障害者の条項を加えるためでございます。

私の説明、以上でございます。

社会文教常任委員長（松原良彦君） 執行の説明が終わりました。

ただいま説明のありました案件について質疑に入ります。質疑のある方、ご発言願います。

14番（小池真一郎君） この改正によりまして田上では対象者はいるのですか。

保健福祉課長（吉澤 宏君） 現時点では13名でございます。

社会文教常任委員長（松原良彦君） そのほかにもございませんでしょうか。質疑のある方はございませぬ。

それでは、ないようですので、議案第34号に対する質疑は終了いたします。

次に、議案第36号を議題といたします。

執行の説明をお願いいたします。

町民課長（鈴木和弘君） 改めまして、おはようございます。

では、議案書の24ページお願いいたします。一般会計の補正予算（第2号）の補正でございます。2款総務費、2項徴税費、1目の税務総務費でございますが、644万5,000円の減額でございます。こちらにつきましては、4月1日付けの人事異動に伴う部分の件費の関係の補正をお願いするものでございまして、今回税務係、昨年までは8人でしたが、7人ということで1名減という部分で減額されているという内容でございます。

めくっていただきまして25ページ、3項1目戸籍住民基本台帳費106万3,000円の減でございます。こちらも4月1日以降の人事異動に伴う部分での関係する経費でございます。

以上です。

保健福祉課長（吉澤 宏君） それでは、26ページ、3款民生費、1項社会福祉費、1目社会福祉総務費を説明させていただきます。補正額は977万3,000円でございます。右側の説明欄で説明させていただきます。社会福祉総務費として803万3,000円の補正をお願いするものでございます。内訳は、給料云々あるのですが、これは保健係から保健師を1人福祉係に人事異動させたための補正でございます。何かといいますと、福祉係、今産休の職員が1人いますので、保健係から1人保健師を異動させたものでございます。

次ページ開いていただいて、27ページでございます。27ページの1目、臨時福祉

給付金、経済対策分の補正でございます。これが174万円の補正でございます。27年度の臨時福祉給付金の対象者をそれにしなさいと。国から通知がありまして、それを越えた人数を29年度で補正するものでございます。1万5,000円掛ける116人分でございます。トータルで2,060人から2,176人になります。

その下でございます。2目の老人福祉費でございます。補正額は162万円でございます。右側の説明欄で説明します。162万円、これは県央寮に1名入所した方がいらっしゃいますので、当初予算に間に合わなかったもので、今回補正をお願いいたすものでございます。

続きまして、3目障害者福祉費でございます。37万5,000円の補正でございます。右側の説明欄でございますけれども、負担金補助及び交付金ということで37万5,000円の補正をお願いするものでございます。これは、グループホームの備品購入費を補正するものでございます。

その下、5目老人福祉費でございますけれども、72万4,000円でございます。老人福祉センターの管理事業として36万1,000円、心起園の管理事業として36万3,000円でございます。これ29年4月から社会保険の加入対象を拡大しましたので、その分を補正させていただくものでございます。老人福祉センターと心起園、各2人でございます。

私の説明、以上でございます。

教育委員会事務局長（福井 明君） 改めまして、おはようございます。

28ページ、2項児童福祉費、1目児童福祉総務費でございますが、259万2,000円の増額をお願いをするものでございます。説明欄のほうであります。児童福祉総務事業の3節職員手当につきましては、職員の異動に伴い追加補正をお願いをするものでございます。続いて、19節負担金補助及び交付金につきましては、加茂市・田上町消防衛生保育組合の負担金でございまして、病児保育園の建設事業において、将来的に2階建てが可能な建物を建設することとしたいため事業費の増額、となることから負担金の追加をお願いするものでございます。

以上ですが。

保健福祉課長（吉澤 宏君） それでは、28ページ、4款衛生費、1項保健衛生費、1目保健衛生総務費でございます。841万4,000円の減額補正をお願いするものでございます。右側の説明欄で説明させていただきます。保健衛生総務事業といたしまして853万4,000円の補正減をお願いするものでございます。先ほど社会福祉総務費で説明しましたように、保健系の保健師を福祉係に異動させたものですので、その分

の人件費の減でございます。それと、人事異動による減が入っております。28ページの一番下でございますけれども、その他事業、12万円の補正をお願いするものでございます。29ページ開いていただきたいのですけれども、負担金補助及び交付金で12万円の補正をお願いするものでございます。水道事業会計職員の人件費分負担金といたしまして、児童手当分を水道会計に繰り出すものでございます。

以上でございます。

教育委員会事務局長（福井 明君） では続きまして、32ページをお開きいただきたいと思っております。10款教育費、1項2目事務局費でございますが、214万7,000円の追加をお願いするものでございます。2節給料から4節の共済費につきましては、4月の人事異動に伴い増額補正をお願いをするものでございます。

次に、4項社会教育費、1目社会教育総務費でございますが、634万1,000円の減額をお願いをするものでございます。生涯学習事業で2節給料から次のページ、33ページの4節共済費までは、4月の人事異動に伴い減額補正を行うものでございます。それから、続いて33ページをお開きいただきたいと思っております。説明欄、社会教育事業でございますが、1節報酬58万5,000円の追加につきましては、5月16日の全員協議会で説明を申し上げましたけれども、田上町スポーツ協会を今年度も人的に引き続き支援をするために、嘱託の社会教育指導員1名の勤務を週3日から週5日程度に増やしまして、報酬を月額9万8,200円から16万3,200円に上げまして、7月より対応するため、追加補正をお願いをするものでございます。また、4節共済費につきましては、社会保険料の適用拡大に伴いまして嘱託、社会教育指導員と事務補助員、それぞれ1名の社会保険料等を見込むものでございます。続いて、学童保育事業35万6,000円につきましては、4節共済費の中で社会保険料の適用拡大に伴いまして学童保育の指導員2名の社会保険料等を見込むものでございます。

以上です。

社会文教常任委員長（松原良彦君） ありがとうございます。

説明が終わりました。

ただいま説明がありました案件について質疑に入ります。ご質問のある方、ご発言願います。

社会文教常任副委員長（小嶋謙一君） 28ページの民生費、児童福祉総務費ですけれども、19節の加茂市・田上町消防衛生保育組合負担金、これ2階建てと、先ほど言われましたけれども、今まで聞いていなかったのは私のあれかもしれないけれども、2階建てとは聞いていなかったのですが、どういう経緯でまず2階建てになったの

かということと。

それと、あと、これ一組のほうである程度協議されている中で、この件に関して反対の意見もあったように聞いているのですけれども、私これまでずっと見ておって、一事が万事みんな加茂市のほうである程度やられた、詰めたものを後出しみたいな形で田上のほうに相談するような形になっているのですけれども、今回もそういう形になっているのではないかと私思うのですが、その2点についてちょっと説明をお願いします。

教育委員会事務局長（福井 明君） 加茂市のほうからというか、一部事務組合のほうから建設に当たって内部的には10月31日の組合臨時議会におきまして議決を得た病児保育園の事業につきましては、2階建てを想定していない事業費であったということで建設用地も限られていることから、将来的に2階建てが可能な建物を建設することになりました。これによって総額3,608万5,000円の事業費の増額をお願いしたいという旨の連絡がありました。地質ボーリング調査の結果も踏まえて、当初想定していた部分等、大幅に事業費が膨らむということから、そのような状況になったということでもあります。

ここで詳しく内容をお示しいたしますが、まず最初に地質ボーリングの結果、想定していた支持層が4メートルほど深くなったということで、くい長を当初15メートルに想定していたものが19メートルに変更したと。

それから、敷地が狭いために工法をP Cパイルぐいが鋼管ぐいに変更になったことで約1,320万円の増額となります。

それから、2階建てを想定した構造計算となったため、想定をしていた既存の地中ばりというのが断面が大きくなるということで土工、それから鉄筋、それからコンクリート型枠工事が増額となったため690万円ほどの増となったということでもあります。

4点目としましては、2階建てを想定した構造計算となったので、当初想定していた鉄骨の柱、それから桁、はりの断面が大きくなりまして、鉄骨量及び加工、それに伴う組み立て工事費が増額となりまして、それで約1,190万円ほど増額になると。

あと、2階建てとは関係ないのですが、病児保育園の裏手のほうに、当初病院から出入りできる通路が確保されるというところがありまして、当初想定していなかったスロープ、階段、手すり、それから目隠しのフェンスなど、面積が約36平米を配置することとなって、380万円ほどの増加になったということで説明を受けております。

経過等につきましては、状況的には加茂市側では将来的には増やしていきたいというふうな部分も示していた部分もあったのですが、結果的に強度計算なりしてみますと、これだけの増となったということであります。

以上です。

社会文教常任副委員長（小嶋謙一君） 将来的に増やしていきたいというのは、要するにお世話になる子どもの数を増やしていくということなのではないでしょうか。増えるという見込みなのではないでしょうか。2階建てにするという。

教育委員会事務局長（福井 明君） 当初1階建てにしていたのは、定員10名という病児保育園を目指していたわけですが、説明によりますと、特にインフルエンザだとか、感染症がはやった場合に10名ではきかなくなるのではないかと。それ以上に増える可能性があるかと。それは、当然のことながらそこでは今度対応できなくなる状況が生まれることから、将来的な部分も含めて、増設を考えたほうがいいのではないかとという視点で2階建てというふうな項目になったということであります。

社会文教常任副委員長（小嶋謙一君） では、今説明されましたその内容、インフルエンザ云々かんぬん、内容というのはみんな加茂市のほうで協議されているのですか、中身は、今言われたのは。インフルエンザ、要するに定員10名のところをそういう感染症等で増えるから2階建てとか、そういったものの中身については市のほうで協議されていることなのではないでしょうか。

教育委員会事務局長（福井 明君） これは、一部事務組合でありますので、その中のそういう部分でございます。

2番（笹川修一君） 当初10名の予定ということでは言われてはいますが、これは倍になった、単純に20名と考えたらよろしいのですか。というのは、今年1月ぐらいから三条でインフルエンザA型、そして3月にまたB型とかなったり、見附でもなったり、学級閉鎖が非常に続いたのですけれども、実際10名、20名レベルでインフルエンザの病児の子どもたちを、ではそれをできるのかどうかと。理屈からいって、それだけの市内とか云々でもかなりありますから、可能かどうかという、今インフルエンザ言いましたけれども、私は不可能かなと思っているのです。各学校のほうで学級閉鎖とかありますから、それをどのように想定するかによって全然規模が違って来る。10名、20名のレベルで考えていいのかどうかという、根本的な問題なのです。

一番最初、とにかく私何カ月か前に、どういう内容の病歴の方をするのですかと。そこ最初私に言いましたよね。ですから、それは協議した部分で出てきていますけ

れども、それをちょっと明確にしないと、では何人、人数だけは決まっても、どういう病気なのかがわからないと、本当に可能かどうかということで、まず1点ちょっとそこを、もちろん可能ではないということは、田上もそれですということは、それだけのものを協議していると思うのですけれども、その辺お答えください。

教育委員会事務局長（福井 明君） 当然感染症は流行りますと、先ほど委員さん言われたように学級閉鎖になるということはあるわけですが、ただ、病児保育園については当然感染性の病気だとか、そういった対応の中で入園するということになりますが、ただ、そんな中で親御さんがやはり家庭で見られるケースも中にはあると思うのです。したがって、病気になったからといって、すぐ病児保育園のほうに行くということではなくて、当然ピークになれば10人を超えるであろうということも想定されると。ただ、今1階で考えた場合に、定員10名であります、部屋の面積からいくと、その何倍かは入れることができるという内容になっています。したがって、それを今度超えた場合に2階建てが必要になってくるのではないかという議論になるかと思いますので、その辺を想定してということです。

2番（笹川修一君） 実は、私の孫が1月から、3女いて、A型、インフルエンザの予防注射を打ったのです。打ったので、その後にA型、3人なりまして、終わったかなと思ったら、2月あたりから今度はB型になりまして、3人なりまして、だから予防注射は効かないという状況で、私実際……どうなのと聞いたら、もうぼこぼこ、ぼこぼこなってきたと。

ですから、私が言いたいのは、できないことをやろうとしてもなかなか理想論では済まない部分があると思うので、A型、B型とか、連続してなるというのを実際見ているので、親ももちろんかかりますし、全部にかかると、一家全滅してしまうのですけれども。そういうことで私が言いたいのは、できるのは何人だと、これではもうできませんよということも想定していてもいいのではないかなという見方なのです。ですから、それが10名から20名、2階建てにしても、こういう病歴だったらここまで参加できますよということで、ある程度想定して行って、きちんとしたものをして、さらにインフルエンザみたいに大量になったときは、とてもではないが、なかなか物理的に無理だということもやっぱり協議すべきかなと。理想論だけで言うと、もう実際的に、ではできるのだと思って、加茂市、田上の人たちがみんなで行ったらどうなのだと、パンクするに決まっています。

それと、もう一点は、2点目は、三条の済生会とか、あそこでもうやっているわけですね。三条の病児保育のところでもうやっている。だから、その辺はどう

だったかというのは、その辺は情報は得ていますか。その2点、ちょっとお願いします。

教育委員会事務局長（福井 明君） 施設を建設する場合、その最大限のピークを見るかどうかという部分ではありますが、当然最大限のピークを見れば、では平常時はどうなるのかというふうな議論になります。したがって、あくまでもニーズ調査の中で想定された部分で、まずは1階からということでありまして、三条の病児保育については、こちらのほうでもまだ調査はしておりませんので、具体的な話はちょっとできませんが、状況は後でまた勉強したいと思っております。

2番（笹川修一君） これは最後、意見なのですけれども、やっぱり最初やっていた、1年前にもうやっているのですから、それは情報はやっぱり得て、どういうふうな感じが想定されているのか。実際1年前にやっているのですから、いろいろな状況が、もう事前に準備というか、事前の調査はやっぱりつくる前にある程度踏まえてほしいなど。そうすることによってある程度問題が想定されることなどもできてくる。空論でいろいろやっても仕方ないですから、実際やっているところからの情報を得て、そして、いやこういう情報あったからという。ただし、加茂が決めたから田上が受けるのではなくて、逆に言うとそういう状況は……田上として情報を得ていて、逆に加茂にフィードバックしていくとか、そういう情報……ここ詰めなくてはいけないだろうということは私は必要になってくるかなと。また、そうすべきだなと。だから、いいものはどんどん、どんどん取り入れていって、これからは備えていくということが必要かなと。だから、そういう意味でもっと密にしながら情報、またここだけではなくて、違うところもやっていると思うので、いいものはちょっと情報を得てほしい。これは意見でございます。

社会文教常任副委員長（小嶋謙一君） 今笹川さんの意見にも一部賛同するところですが、いずれにせよ私思うに、そもそも一部事務組合に対して出たものは加茂市から出ていると思うのです、議案として。実際事務組合のほうでも決をとっている話ですから、もうここでは2階建てだめとかどうこうは言いませんけれども、しよせんこのような形で田上についても予算が絡んでくるわけです。お金が絡んでくるわけですから、事前にそういう説明とかというのはあってしかるべきではないでしょうか。今笹川さんが言われましたように、その中で事前に話があれば、その後、幾らでも協議できるわけですから、今後その辺よろしくお願ひしたいと思ひますが、ちょっと意見として聞いておきましようか。

教育委員会事務局長（福井 明君） では、意見として。

14番（小池真一郎君） 消防衛生保育組合、これは田上の議員の皆さんも4名出席しております。

そこで、今回補正予算で提案されている案件、今局長が説明された案件が提案されて、私は議運の中でも同僚議員が非常に議論があった。この案件についてかなり議論があったという話を聞きました。

そこで、一番の問題は、小嶋委員もここが言いたかったのだろうと思いますけれども、加茂の議員の皆さんには全協を開いてこの案件は説明しているだと。一方、田上は関係4人しかこの説明がなされていない。そして、笹川委員が言いたかったのは、この案件が本当に適正かどうかというのは非常に私は心配していると思うのです。三条にもこれから新しい病院が建つ、加茂近郷にもかなりの施設もあります。そして、何よりも私どもここにいる人たちはあの加茂病院の運営、今日まで運営を見ていると、本当に大丈夫かと。そして、何よりも今不足されているのが小児科の医者がいないと。つくっても医者がいないなんていう状況の中でこういう計画を提案されてきました。本当に私はこういう大切な案件というのは、お金は関係なく、加茂も田上も同等の立場で意見を私は聞くべきだと。局長にこんなこと言っても恐らくどうにもならぬ話、管理者に私どもが言わなければだめなのですが、他でもこういう状況が起きていることは事実ですから、こういうことが起きないためには、田上町として管理責任者に対してどう対応するかというのを本当に私は今後考えていかなければならないと思うのですが、これは参考までに、局長に言ってもしょうがないのですが、あそこの中で特にあなたが気になった意見とかなんとかというのがありますか。なければないで結構です。

教育委員会事務局長（福井 明君） 先ほど加茂と田上もニーズ調査の関係で似たような仕事しましたが、ニーズ調査の量では10人程度というような形ですので、その部分では必要だと感じておりますが、ただ、将来的な部分、少子化の中で果たしてではどれだけの児童なり、また子どもたちがそこへ利用して果たして必要になってくるのかと。ただ、やはり運営をしてみないとわからないなというふうな状況はあったかと思えます。ただし、その点、将来的な部分を見越していれば、あそこの施設の中でやはり2階建ては必要なのかどうかという議論はしなければならないのだろうというふうには思っております。

14番（小池真一郎君） 町長にお願いしたいのですけれども、町長が一番よく知っている人でありますので、管理者は。今後こういうことがないように、田上も加茂も議員がこれだけいるわけですから、同等の対応ができるように管理者のほうに強く要

望をお願いしたいと思います。

町長（佐藤邦義君） この件につきましては、議運のとき指摘があったことでありまして、その議会、当初組合議員の皆さんに説明に行く前に、私のところへ寄って一部始終経過は聞きました。内々そういうことがあるという話は聞いておりましたけれども、詳しい話は先ほど局長が説明したとおりでありますが、後で聞きましたところが、加茂市では全員協議会で議員全員に説明したというような、それは後で聞いた話で、あのときは担当課長と中野顧問が来て説明をしました。では、田上町の議会のほうにも、議員さんのほうにも説明しますということで3階に上がったのですが、議運のときもお話ししましたように、ちょうど今小池委員からご指摘ありましたように、一応田上町は副管理者ということになっておりますから、最重要課題になると実は管理者が本当は来て、内々打ち合わせをして決めていたのが普通でしたけれども、この件についてはどういうわけだか管理者が直接田上のほうに来ることはなくて、担当の課長と顧問が来たわけですが、私もうちの一部事務組合の議員さんだけに説明してきたというのは後で知ったわけですが、この件につきましては議運のときにもお話ししましたように、十分これからこういう手続上の問題しっかりしてほしいということを管理者を通して一部事務組合のほうにきちんと伝えて、対応していきたいと思っております。ご理解願いたいと思います。

社会文教常任委員長（松原良彦君） 今のお話の延長と申しますか、私からも少しお聞きしたいのですけれども、この病児保育、最初は田上から提案が生まれて、加茂病院の今の入り口の左側のほうに建物を作る。2番目は、新しくできた庁舎の中にその施設を作ると。3番目は、今この歯科医院の跡地に作るということに。二転三転してこういう行政、動いて内容が変わっているわけです。そうすると、それにつれてだんだん予算も、経費もかかっていくと。もうこれ以上出ないのであればいいけれども、これで今3回目、今度は4回目ということになると、なかなか本気にこれが必要なかどうか、いろいろ疑いも出てくるし、今度からは変更はもうないのだというぐらいのところを示してもらわないと、いつになってもどういふのだ、どうなったと、これは不安の種になると思います。

それから、お医者さん、小児科の医師がまだ決まっていけないのに、そういうふうなことを言われても、恐らく加茂病院としても対応ができないのではないかと。そこら辺、小児科の医師もしっかりきっちり決まってからでないと、これまたそういう多人数の人がインフルエンザにかかったときどうなるのかと、わからないと思えますから、そこら辺、各隣の市町村と連携プレーでまたその子どもたちのものを見る

ことができるようになるのか。まだまだいろんな問題が下に隠されているみたいなのですけども、そこら辺、局長、何か心配事の1つや2つ、今も言いましたように、やってみなければではなくて、ある程度想定を相当いっぱいしていかないと、これ子どものことですから急のことですから、急に子どもが出るわけですから、考えている暇なんぞ私はないかと思うのですけれども、もう少し今後の対応、執行のほうもお願いなのですけども、これでもう何も無いのだというようなところで出発しないと、後から後から出てくると、これまた大変なことになると思うのですけれども、そこら辺、町長もう一言何か答弁ございましたら。

町長（佐藤邦義君） 誤解しているとは思いませんけれども、本来この病児保育というのは最初に病気が発生したときにはいわゆる一般の医者に行って診断を受けて、重い場合は入院ということだと思いますが、それで先ほど局長がお話ししましたように、本来家庭で面倒を見られない子どもたちを、保育所に行きませんから、この病児保育で扱うということになって、当初は10人なんてないだろうというような話が実はあったのです。加茂と田上でそんな10人なんて病児保育にやるということはないだろうと。最近若い人たちが共稼ぎでそういうことが出てきましたけれども、そういうところから出発して10人となっていました。そうこうするうちにインフルエンザがあって、インフルエンザになったから、すぐ病児保育へ連れていくのではありません。あくまでも医師が判断して、ああ、これはでは保育所にやらないで家庭か、もしくは病児保育の中で対応すべきだというふうに判断されてから行く問題になってくるわけです。

それで、先般加茂病院の院長さんも含めた、田上町の医療問題の当局が、ちょうど秋山先生、院長さんおられましたから話を聞いて、これは個人的に聞いたことなのですが、実際に心配されたように小児科医がいないというので大変なのだということで、そうなった場合は誰が診るのですかという話をしたら、総合内科というのがかわりにあるのだそうです。どうしてもということになれば総合内科で診なければ、その総合内科での秋山先生の下の人、何人かいるのだそうですが、そういうことになるということで、確かに今ほど心配されたように、やってみなければわからないという、そういうことはあるのです。あるので、これは加茂市長とともにやっぱり医師の確保には再三お願いしているわけですが、今日の新聞にも医師不足だというようなこと出ておりますが、いずれにしても決定でないので、加茂病院小児科の医師がいなくても開いて、そのときは総合内科としてお願いするしかない。そうでなければ、開業医にお願いするかと。そのような話も内々には出ておりますが、

これからであります。

社会文教常任副委員長（小嶋謙一君） では、今回この補正に上げる金額というのは、先ほどの説明ですと基礎とか、もろもろにかかっているという、将来2階建てに向けての経費ということで捉えていいのですね。そうしたら、今度は2階建てが仮にできた場合、上物ができた場合、補正でもってまた金額がこちらへ来るということですね、これ。お金がかかるということですね。

教育委員会事務局長（福井 明君） 今回補正されたのは、先ほど説明したように2階建てに必要な部分の基礎だとか、くいを含む、構造的に必要な部分、将来的に今度わたって状況を見た上で2階建てにすることであると、その辺の協議はまた出てくるというふうに考えております。

9番（川崎昭夫君） いろいろ今話聞いていたのですけれども、私も今度消防衛生保育組合の議員になるのですけれども、今までタッチしていなかったからちょっとその中身はわからないと。ずっと全協で田上もやられてきたのですけれども、加茂の議員さんたちは全協で説明があったということで事が進んできたのだらうと思います。その間は、ずっと前からこの病児保育に関しては我々も、田上の議員も全員協議会等々でいろいろ提案いただいた中身を議論してきた中身ですけれども、今不思議に思っているのは、田上町の議員に対してそういうずっと全員協議会でやってきたものが何で今回できなかったのかな、時間がなかったのだらうかなと、そういう今疑問に思っているのですけれども。

さっき町長が言われたように、この病児保育は定員は10名と、私はこれでいいと思うのです。本当に最初から加茂病院に行くはずはないのだから、小児科へ行って、町長言われたようにその辺の対応が10人でいいのだらうと我々はずっとそういうふうに最初から承知してきましたし、増の部分も一部説明もありました。それは、将来を見込んだ中身であって、それは将来的にずっと5年、10年やってきたら、やっぱり10人では足りないねということで2階建てにするということになれば、またもっと予算がかかると思うのです。だから、それを踏まえて、最初から2階建ての地質調査をしなければならぬと、多分加茂の議員さんの全員協議会の中でそんな話もあったかなと、私はちょっと中身知らないのですけれども。その辺を踏まえて、よく説明してくれば、ああ、なるほどなど、これは田上の議員さんだつてわかると思うのです。それがここまでいって、ただ補正組みますというふうでこの社会文教常任委員会に付託されるというのは、ちょっとこれ私は議員、ここに今いる全員が、7名が誰も納得しないと思うのです、私実際のところ。そういうことを踏まえ

て、我々を、田上の議員を抜きにしているのではないけれども、やっぱり加茂が全協やったら、田上もそれなりの全協をやって、本当に議員13名を、それではよかったねと言われる会議にして議案で持っていかなければ、突然こんな補正なんていったって、誰も私はうんと言わないと思う。それをもう少し今後執行側も、加茂が言ったから変わるのではなくて、やっぱり田上は田上の対応がありますから、その辺ちょっと勉強してもらいたなと思います。私これ意見です。

社会文教常任委員長（松原良彦君） そのほかにこの件に関して質問ある方。

それでは、この病児保育園に関してはこれで一旦打ち切りにしたいと思います。

そのほかにこの議案書の中で質問のある方ございませんでしょうか。

では、私から一つお聞きしますけれども、27ページの障害者福祉事業ということで、田上のグループホームの助成金なのですけれども、37万5,000円、これは全部県から出るのですか。それとも町も負担するのでしょうか。その点ちょっとお聞かせください。

保健福祉課長（吉澤 宏君） 37万5,000円の内訳ですけれども、県が50%補助と、町が25%補助でございます。

以上でございます。

社会文教常任委員長（松原良彦君） はい、わかりました。

そのほかございませんでしょうか。

なしという声が出ましたけれども。

それでは、質問もありませんので、議案第36号に対する質疑は終了いたします。

これより討論及び採決を行います。

議案第34号について討論に入ります。ご意見のある方、ご発言願います。

14番（小池真一郎君） 私は、今回のこの病児保育園の関係でございますが、ここで提案されて、私どもが採択すれば、執行側と同じで、説明責任というのが今度はかかってきます。そういう意味でこういうものを提案するのであれば、先ほど川崎委員も言いましたように、本当に皆さんがああ、よかったねというような提案の仕方をしてもらわないと、これから私どもは今度は執行側と同じで、町民に対して説明をしなければならないという重荷を背負うことになりますので、今後こういうことがないようにきちんと説明をお願いすることを付しまして賛成といたします。

社会文教常任委員長（松原良彦君） ただいまご意見がありました。きちんと説明をしてくださいということでございますので、そのようにお取り計らいお願いいたします。

そのほかにございませんでしょうか。

(34号でしようの声あり)

社会文教常任委員長(松原良彦君) 34号。

(何事か声あり)

社会文教常任委員長(松原良彦君) 大変失礼しました。間違いました。小池委員の意見は、36号についてです。

しばらくにしてご意見もありませんので、討論を終結いたします。

これより議案第34号の採決を行います。

お諮りいたします。本案は原案のとおり決することに異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

社会文教常任委員長(松原良彦君) 異議なしと認めます。よって、議案第34号は原案のとおり決しました。

次に、議案第36号について討論に入ります。ご意見のある方、ご発言願います。

小池さん、先ほどのでいいですよ。

14番(小池真一郎君) はい。

社会文教常任委員長(松原良彦君) では、小池さんはこのとおりでございます。

そのほかにも討論ある方ございませんでしょうか。

しばらくにしてご意見もありませんので、討論を終結いたします。

これより議案第36号の採決を行います。

お諮りいたします。本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

社会文教常任委員長(松原良彦君) 異議なしと認めます。よって、議案第36号は原案のとおり決しました。

これをもちまして本委員会に付託されました案件は全て終了いたしました。

付託された案件は、本会議で報告いたします。

執行の皆さん、大変ご苦労さまでございました。

---

午前9時55分 閉会

田上町議会委員会条例第27条の規定により、ここに署名する。

平成29年6月23日

社会文教常任委員長 松 原 良 彦